

2025 年 12 月 19 日

お客様各位

セイコーソリューションズ株式会社

SmartJumper Version 2.0.1 リリースノート

目次

Version 2.0.1 (リリース日 : 2025/12/19)	3
1 脆弱性対応.....	3
1-1 脆弱性対応 (React / Next.js : Remote Code Execution 他)	3
Version 2.0.0 (リリース日 : 2025/11/12)	4
1 機能追加	4
1-1 LDAP 認証機能.....	4
1-2 監査ログ機能.....	5
1-3 ターゲット接続時の ssh 公開鍵認証	6
1-4 制御コードが無いログのダウンロード機能.....	7
1-5 ユーザーセッションのログを出力する機能.....	7
1-6 SmartJumper 用 IP アドレスプールをユーザー指定可能にする機能	8
2 仕様変更	8
2-1 GUI 関連の機能改善.....	8
2-2 SmartJumper アクセス時のポート番号指定	8
2-3 タイムゾーンのマルチリージョンの対応	8
2-4 ターゲット接続アイドルタイムの変更.....	8
2-5 SSH 公開鍵認証の仕様変更.....	8
2-6 smartjumper コマンド実行時の条件の仕様変更	8
2-7 アクセスグループの編集条件の仕様変更	8
2-8 ターゲット作成時の最大セッション数.....	9
2-9 サポート外の鍵登録を防止.....	9
3 不具合修正.....	9
3-1 Telnet 接続時にログイン ID が自動で入らない問題.....	9
3-2 CLI 接続セッションの有効期限切れでのログアウト.....	9
3-3 ユーザー権限でのログ削除.....	9
3-4 ホーム画面の件数表示	9
3-5 SSH 公開鍵認証による接続が機能しなくなる問題.....	9
Version 1.1.0 (リリース日 : 2024/11/28)	10
1 機能追加	10
1-1 ターゲット接続時のアカウント情報保存	10
1-2 SSH 公開鍵認証.....	11
1-3 ユーザーセッションログ画面に削除アイコンを追加	11
1-4 接続中セッションの説明から対象のターゲットを検索する機能.....	11
1-5 ターゲット・ターゲットディレクトリの移動機能.....	12

1-6	HTTPS アクセス時の証明書インポート機能.....	12
1-7	CSV ファイルによる設定情報のインポート、エクスポート機能.....	13
1-8	IPv4 リンクローカル機能.....	13
2	仕様変更	13
2-1	GUI	13
2-2	CLI	13
2-3	SSH 暗号アルゴリズム	14
2-4	SmartJumper のセッション情報周りの変更	15
2-5	smartjumper コマンドの仕様変更	15
2-6	smartjumper コマンド実行時の条件の仕様変更	15
2-7	SmartJumper の sshconfig に関する変更	15
3	不具合修正	16
3-1	DB ヘルスチェックの修正.....	16
3-2	IPv6 の無効環境での動作.....	16
3-3	ルートディレクトリ直下だと「TargetDirectory と Target 名の重複」していても作れてしまう 不具合を修正しました	16
3-4	telnet 接続時のウィンドウサイズ	16
3-5	長期間のログをダウンロードに失敗.....	16

Version 2.0.1 (リリース日 : 2025/12/19)

Version 2.0.1 では以下の脆弱性対応を行いました。

1 脆弱性対応

1-1 脆弱性対応 (React / Next.js : Remote Code Execution 他)

CVE-2025-55182 / CVE-2025-66478 (React2Shell)

CVE-2025-67779

CVE-2025-55183

上記脆弱性の対応を行いました。

Version 2.0.0 (リリース日 : 2025/11/12)

Version 2.0.0 では以下の機能追加、仕様変更、不具合修正を行いました。

1 機能追加

1-1 LDAP 認証機能

SmartJumper へログインする際の認証方法に LDAP 認証を追加しました。
システム設定/認証プロバイダーから、LDAP 認証の設定を追加することが可能です。



LDAP サーバーに登録されている属性と値を基に、ユーザーとアクセスグループを紐づけることが可能です。
割り当てルールを作成しておくことで、当該アクセスグループ内のターゲット装置へアクセス可能となります。

アクセスグループ割り当てルール追加

アクセスグループ割り当てルール

マッチ条件を入力してください。認証プロバイダーから取得したすべての属性について、属性 / 値のペアを照合します。照合は完全一致です。値にワイルドカード (*) を含めると、任意の文字列と一致します。

属性 *

値

アクセスグループ

新たにログインするユーザーを所属させるアクセスグループを選択してください。その割り当てはマッチ条件を満たす場合に限りです。

未選択

検索 2 件から検索する ...

名前	全選択
network	選択
finance	選択

< 1 >

表示数 10

選択済み

検索 0 件から検索する ...

名前

全解除

1-2 監査ログ機能

セキュリティ強化の為、以下のログを csv ファイルで取得できるようになりました。

- SmartJumper の認証に関するログ
- SmartJumper の運用に関するログ

1-3 ターゲット接続時の ssh 公開鍵認証

ターゲットに接続する際に ssh 公開鍵認証を選択できるようになりました。

新規ターゲットセッション

ターゲットの認証
入力した情報は、接続ウィンドウを開いたあと自動入力されます。

ターゲットログインID *

somebody

ターゲット認証 **パスワード** **プライベートキー**

ed25519_linux

ssh プライベートキーの追加設定は個人設定から追加ができます。

SmartJumper ホーム ログ ユーザー管理 ターゲット管理 アクセスグループ管理

個人設定 / ターゲット認証 / sshプライベートキー追加

一般
システム認証
ターゲット認証

名前 *

プライベートキー *

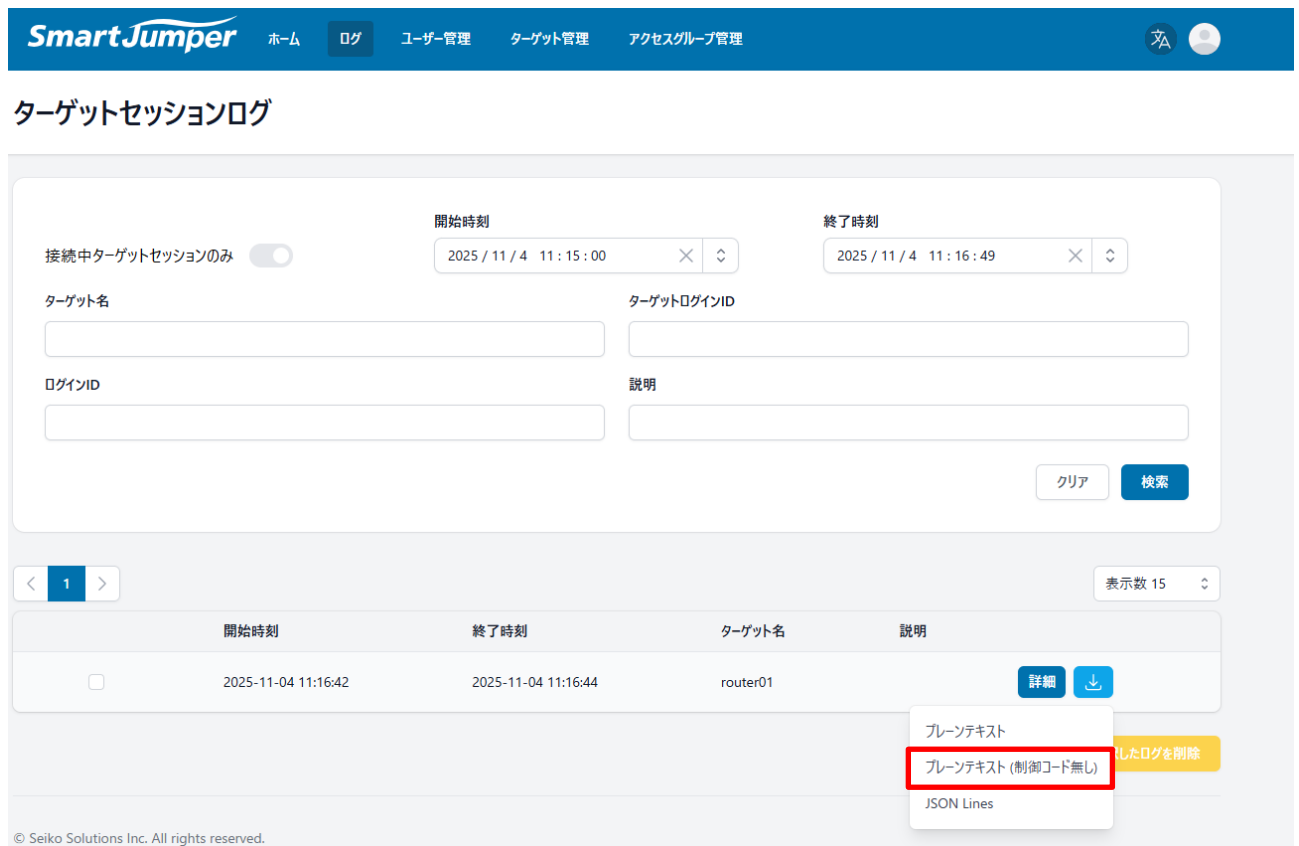
クリックしてプライベートキーファイルを選択するか、ファイルをドラッグ & ドロップしてください

パスフレーズ

キャンセル sshプライベートキー追加

1-4 制御コードが無いログのダウンロード機能

オペレーションログを制御コード無しのプレーンテキストでダウンロードできるようになりました。



The screenshot shows the 'ターゲットセッションログ' (Target Session Log) page in the SmartJumper application. The top navigation bar includes 'SmartJumper', 'ホーム', 'ログ', 'ユーザー管理', 'ターゲット管理', and 'アクセスグループ管理'. The main content area has a search filter for '接続中ターゲットセッションのみ' (Only active target sessions) and date/time pickers for '開始時刻' (Start time) and '終了時刻' (End time). Below these are input fields for 'ターゲット名' (Target name), 'ターゲットログインID' (Target login ID), 'ログインID' (Login ID), and '説明' (Description). A '検索' (Search) button is present. The results are displayed in a table with columns: '開始時刻', '終了時刻', 'ターゲット名', and '説明'. A single log entry is shown for 'router01' on '2025-11-04' at '11:16:42' to '11:16:44'. A context menu is open over the entry, showing options: 'プレーンテキスト' (Plain text), 'プレーンテキスト (制御コード無し)' (Plain text (no control code)), and 'JSON Lines'. A '詳細' (Details) button and a 'ダウンロード' (Download) button are also visible. A '表示数 15' (Display 15) dropdown is in the top right. A 'ログを削除' (Delete log) button is in the bottom right. The footer contains '© Seiko Solutions Inc. All rights reserved.'

	開始時刻	終了時刻	ターゲット名	説明
<input type="checkbox"/>	2025-11-04 11:16:42	2025-11-04 11:16:44	router01	

1-5 ユーザーセッションのログを出力する機能

以下のコマンドで、ユーザーセッションのログを出力できるようになりました。
オプションを指定する事で、ファイル名を指定して出力することも可能です。

- **smartjumper log list csv**

SmartJumper に保存されているユーザーセッションログを csv 形式で出力します。

- **smartjumper log list table**

SmartJumper に保存されているユーザーセッションログを table 形式で出力します。

1-6 SmartJumper 用 IP アドレスプールをユーザー指定可能にする機能

SmartJumper 起動時に Docker が自動的に割り当てる SmartJumper 用 IP アドレスプールが既存のホスト側ルーティングと干渉することを避けるため、割り当てられる範囲を明示的に指定できるよう IPv4 サブネット設定を追加しました。

2 仕様変更

2-1 GUI 関連の機能改善

GUI 画面での操作仕様を変更致しました。

- ・ 個人設定の表示画面を変更しました
- ・ ログ検索画面の検索条件の「リセット」ボタンを「クリア」に名称を変更しました

2-2 SmartJumper アクセス時のポート番号指定

SmartJumper へのアクセス時に利用する HTTPS / SSH のポート番号を、それぞれ 443/22 に設定可能としました。

2-3 タイムゾーンのマルチリージョンの対応

ターゲットセッションのタイムゾーンを指定できるようになりました。

IANA タイムゾーンデータベースに登録されているタイムゾーン名を指定してください。

初期値は Asia/Tokyo です。

2-4 ターゲット接続アイドルタイムの変更

ターゲットセッションのアイドルタイムアウトの値を、1～1440 分の範囲で分単位で変更できるようになりました。

初期値は 60 分です。

2-5 SSH 公開鍵認証の仕様変更

SmartJumper に SSH 接続する際、公開鍵認証に失敗するとパスワードプロンプトが出てくる（パスワード認証にフォールバックする）ように変更しました。

2-6 smartjumper コマンド実行時の条件の仕様変更

smartjumper コマンドを実行する場合、全てのコマンドを管理者権限での実行に変更しました。

2-7 アクセスグループの編集条件の仕様変更

ユーザーのセッション接続状態に関わらず、当該ユーザーのアクセスグループへの追加/削除を可能としました。

2-8 ターゲット作成時の最大セッション数

ターゲットを作成する際の最大ターゲットセッション数のデフォルト値を 5 に変更しました。

2-9 サポート外の鍵登録を防止

ターゲット接続用の SSH 公開鍵を CLI で登録する際に、サポート外の鍵登録がエラーとなるように変更しました。

3 不具合修正

3-1 Telnet 接続時にログイン ID が自動で入らない問題

ターゲットへの Telnet 接続をする際に、一部ターゲットにログイン ID が自動で入らない事がある問題を修正しました。

3-2 CLI 接続セッションの有効期限切れでのログアウト

CLI 接続セッションの有効期限が切れた場合に、ライセンスインストール済みの環境であっても、no valid license のようなライセンスエラーが出ていたため、再ログインを促す文言を出してログアウトするように修正しました。

3-3 ユーザー権限でのログ削除

ユーザー権限でターゲットセッションのログを削除出来てしまう問題を修正しました。

3-4 ホーム画面の件数表示

SmartJumper ログイン後のホーム画面にて、検索バーの総件数(～件から検索する)に表示されるターゲット件数の値が、アクセスグループを加味するように修正しました。

3-5 SSH 公開鍵認証による接続が機能しなくなる問題

SmartJumper へ SSH 公開鍵認証で接続し、1 日以上経過した状態で他の SSH 公開鍵接続が発生するより前にブラウザで接続をすると、SSH 公開鍵接続が利用できなくなる問題を修正しました。

Version 1.1.0 (リリース日 : 2024/11/28)

Version 1.1.0 では以下の機能追加、仕様変更、不具合修正を行いました。

1 機能追加

1-1 ターゲット接続時のアカウント情報保存

ターゲットへ接続する際に入力するアカウント情報(ログイン ID、パスワード)を SmartJumper に保存できるようになりました。「このアカウントを保存する」にチェックを入れて接続した場合に保存され、次回以降の接続でアカウントの入力が不要になります。

自動入力される情報を削除し、別のアカウントを入力して接続すると情報が更新されます。
アカウントの保存は HTTPS、SSH のどちらで接続した場合でも利用可能です。

新規ターゲットセッション

ターゲットの認証
入力した情報は、接続ウィンドウを開いたあと自動入力されます。

ターゲットログインID * ターゲットパスワード

port

☒ このアカウントを保存する

セッションの属性

説明

接続 (操作可能) キャンセル

SmartJumper にログインするユーザーに対して、ターゲットごとに1つのアカウントが保存され、各ユーザーの個人設定ページで確認および削除を行うことができます。
保存済みアカウントの確認、削除は HTTPS 接続のみ対応しています。

保存されている認証情報	ターゲット名	ターゲットログインID	ターゲットパスワード	
	serverA	user	*****	

1-2 SSH 公開鍵認証

ユーザーが SmartJumper に SSH 接続する際の公開鍵認証に対応しました。
サポートする公開鍵アルゴリズムは下記の通りです。

- ecdsa-sha2-nistp256
- ecdsa-sha2-nistp384
- ecdsa-sha2-nistp521
- ssh-ed25519

1-3 ユーザーセッションログ画面に削除アイコンを追加

ユーザーセッションのログ画面にログを削除するためのアイコンを追加しました。
削除ボタンから該当のターゲットセッションのログを削除する事ができます。

ターゲット

名前
SW


ターゲットセッションログ

ID
4

開始時刻
2024-11-14 17:54:25

終了時刻
2024-11-14 17:54:25

説明
アクセスグループ名
adm, user, user2, user3

ターゲットログインID
adm

🔍 1 件から検索する ...

開始時刻	終了時刻	ログインID	Source IPアドレス	モード
2024-11-14 17:54:25	2024-11-14 17:54:25	admin	192.168.1.100	RW

< 1 >

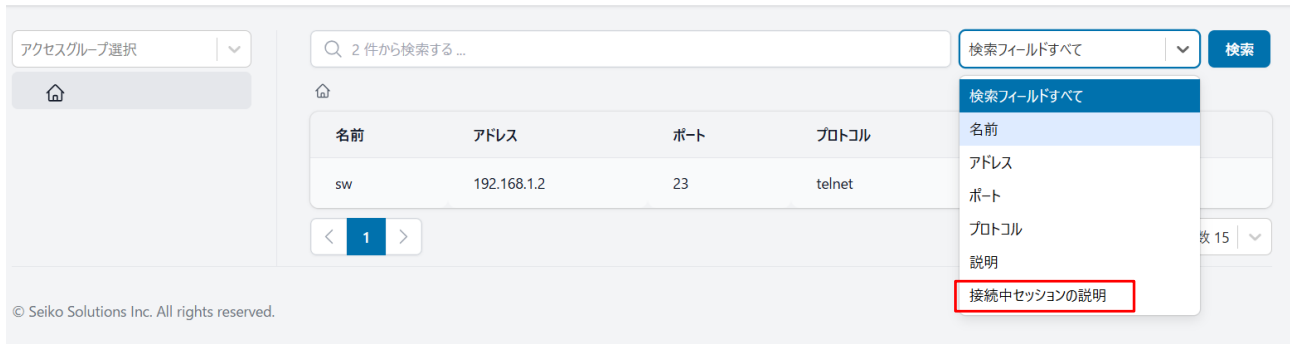
表示数 15 ▾

1-4 接続中セッションの説明から対象のターゲットを検索する機能

接続中ターゲットへ相乗り接続したい場合にターゲットの検索種別に「接続中セッションの説明」欄を追加し、接続時のターゲットセッションの説明からターゲットを検索できるようにしました。

「接続中セッションの説明」は「検索フィールドすべて」と「接続中セッションの説明」で検索可能です。
検索方法は、文字列での検索文字を含むかどうか(部分一致)となります。

ホーム



1-5 ターゲット・ターゲットディレクトリの移動機能

ターゲット管理画面からターゲット、ターゲットディレクトリを別のディレクトリへ移動できるようになりました。

図の太枠内の移動フォルダのアイコンをクリックした後に移動先のディレクトリを選択し移動できるようになりました。



ただし移動元と移動先が同じ場合は移動しません（移動元＝移動先）

1-6 HTTPS アクセス時の証明書インポート機能

HTTPS アクセス時に使用する SSL 証明書に、v1.0.0 では Smart Jumper の自己署名された証明書のみをサポートしていましたが v1.1.0 ではユーザーが指定する任意の証明書を使うことができるようになりました。

1-7 CSV ファイルによる設定情報のインポート、エクスポート機能

v1.0.0 で SmartGS からの移行のみを目的として実装されましたが、v1.1.0 では SmartJumper の config を CSV ファイルで保存、追加、編集する事を目的に機能を追加と変更しています。

主な追加変更の点としては以下となります。

- config を export する機能を追加
- config が入った状態でも import が可能
- export した csv ファイルに追加、編集して import が可能

※注意点として csv ファイルに記載されているユーザー、ターゲットが接続していない状況で import をして下さい。

1-8 IPv4 リンクローカル機能

IPv4 リンクローカルアドレスのターゲットへの接続に対応しました。

本機能はデフォルトでは無効となっており、SmartJumper にリンクローカルアドレスを設定することで有効となります。

2 仕様変更

2-1 GUI

V1.1.0 では GUI 画面での操作の仕様を変更・改善致しました。

- サインインしているユーザーのパスワードを変更する際に現在のパスワードも入力するよう変更しました。
- ターゲット、ユーザー、アクセスグループの作成、編集画面で、関連付ける対象を選択した際に、選択後に未選択リストのページを維持するようになりまとめて選択できるように変更しました。
- ユーザーセッションログ画面からターゲットセッションログ画面へ戻った際の、直前のターゲットセッションログの検索条件を引き継ぐよう変更しました。
- ホーム画面、ターゲット管理画面での検索時にすべての検索フィールドを対象にして検索できるよう変更しました。
- 各テーブルやリストのデフォルトの並び順を ID 順から名前順へ変更しました。

2-2 CLI

- ターゲット接続時の idle timeout を GUI と同様に 60 分に変更しました。
- list コマンドに<TargetName> オプション追加し、ターゲット検索をできるようにしました。

- ・〈TargetName〉をオプション指定する list、detail、connect コマンドにタブ補完機能を追加しました。
- ・connection 時の description にスペースを許可するように変更しました。

2-3 SSH 暗号アルゴリズム

SSH アルゴリズムを以下指定するように変更しました。

- ・暗号化アルゴリズム (Ciphers)

アルゴリズム	v1.0.0	v1.1.0
aes128-gcm@openssh.com	○	○
chacha20-poly1305@openssh.com	○	×
aes128-ctr	○	○
aes192-ctr	○	○
aes256-ctr	○	○

- ・メッセージ認証符号 (MACs)

アルゴリズム	v1.0.0	v1.1.0
hmac-sha2-256-etm@openssh.com	○	○
hmac-sha2-512-etm@openssh.com	○	○
hmac-sha2-256	○	○
hmac-sha2-512	○	○
hmac-sha1	○	○
hmac-sha1-96	○	×

- ・鍵交換アルゴリズム (KeyExchanges)

アルゴリズム	v1.0.0	v1.1.0
curve25519-sha256	○	○
curve25519-sha256@libssh.org	○	○
ecdh-sha2-nistp256	○	○
ecdh-sha2-nistp384	○	○
ecdh-sha2-nistp521	○	○
diffie-hellman-group14-sha256	○	○
diffie-hellman-group14-sha1	○	×

- ・ホスト鍵アルゴリズム (HostKeyAlgorithms)

アルゴリズム	v1.0.0	v1.1.0
ssh-rsa	○	×
rsa-sha2-256	○	○
rsa-sha2-512	○	○
ecdsa-sha2-nistp521	×	○
ssh-ed25519	×	○

2-4 SmartJumper のセッション情報周りの変更

- ・SmartJumper の再起動のたびに HTTPS のセッションがリセットされていたが、前回起動時の情報を保存し、リセットにならないように変更しました。
- ・以下のコマンドを打つことで SmartJumper にアクセスする際のセッション情報をリセットする事ができます。

```
$ smartjumper secret reset
```

2-5 smartjumper コマンドの仕様変更

SmartJumper のバックアップ、リストア、初期化コマンドの仕様を変更しました。

- ・バックアップ

```
$ smartjumper backup
```

- ・リストア

```
$ smartjumper init
```

- ・バックアップ

```
$ smartjumper restore
```

- ・ログの消去

```
$ smartjumper log delete all
```

2-6 smartjumper コマンド実行時の条件の仕様変更

- ・smartjumper config/log のコマンドを実行する場合は admin 権限のみ実行可能に変更しました
- ・import する際は有効なライセンスを適用しないと実行できないように変更しました

2-7 SmartJumper の sshconfig に関する変更

ターゲットへ接続する際の sshconfig のファイルを指定した後に、再起動しても設定を維持するようにしました。

3 不具合修正

3-1 DB ヘルスチェックの修正

jumper のインストール時の DB ヘルスチェックで mysql のアクセスエラーになっていたものを修正しました。

3-2 IPv6 の無効環境での動作

ホスト OS で IPv6 が無効の場合、SmartJumper の起動が失敗する不具合を修正しました。

3-3 ルートディレクトリ直下だと「TargetDirectory と Target 名の重複」していても作れてしまう不具合を修正しました

3-4 telnet 接続時のウィンドウサイズ

telnet 接続時にユーザー側の端末でウィンドウのサイズを変更した際にターゲットの端末は変更したウィンドウサイズの内部情報と同期するように修正しました。

3-5 長期間のログをダウンロードに失敗

ターゲットでのオペレーション（またはログに書かれるコマンド出力など）の間隔が長いログのダウンロードに失敗する場合がある不具合を修正しました。